株式会社 コムラックス 環境経営レポート2024年度







発行日:2025年6月5日 対象期間:2024/04/01~2025/3/31

株式会社 コムラックス 代表取締役 小邑 敬 岐阜県高山市清見町三日町733番地2

1 環境経営方針



●環境経営理念

株式会社コムラックスは、ドア・枠の生産を通じて、『地球環境保全』が、人類共通の課題であることを認識し、経営の最重点課題の一つと位置付けます。 その為に、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組み、環境に配慮した循環境型社会の構築に貢献します。 さらに、木製ドア及び住宅用部材の提供を通じ、社会に貢献することをめざしています。

●環境保全への行動指針

株式会社コムラックスは、自主的・積極的に環境経営に取組み、全ての事業活動『木製住宅関連部材に関する商品の開発・製造・品質保証・(不良対応・手直し対応)・販売等』が環境に何らかの影響を与えていることを認識した上で、下記の環境保全活動を推進すると共に環境経営を継続的に改善します。

- 1. 環境関連法規制を遵守します。
- 2. 適切な環境目標を定め、計画実行し定期的に見直します。
- 3. 環境負荷を低減する為に、下記の活動を全社で取組みます。
 - 1. 二酸化炭素削減の為電気・化石燃料の使用量 削減に取組みます。
 - 11. 水の使用量削減など省資源に取組みます。
 - III. 廃棄物の削減に取組みリユース・リサイクルを推進します。
 - IV. 環境に配慮した製品の販売を促進します。
 - V. グリーン購入の拡大を推進します。
 - IV. 化学物質の適正管理に努めます。
 - VII. 原材料の効率的使用に努めます。
- 4. この環境方針は全従業員に周知、徹底します。
- 5.地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日: 2005年03月05日 改定日: 2025年07月09日 事業所名:株式会社コムラックス

代表者名: 小邑 敍

事業組織の概要

(1)事業者名及び代表者名 株式会社 コムラックス 代表取締役 小邑 敬

(2)所在地

本社・工場

〒506-0102 岐阜県高山市清見町三日町733番地2 創立 1992年3月

東京ショールーム 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-2-1 403ギャラリー内 (東京ショールームには常駐社員は無く、エコアクション21の認証・登録範囲には 含まれません。)

(3)環境保全関係の責任者及び連絡先 環境管理責任者:工場長/大坪 嘉永 環境管理担当者:総務部/白川 信子

連絡先:Tel 0577-68-3688 Fax 0577-68-3288

URL http://www.comlux.co.jp E-mail info@comlux.co.jp

木製ドア及び住宅用部材の製造販売 (ドア・造作材・和風建具等)



~人の手で、木々に新たな息吹を~

|自然に恵まれた木々に、新たな息吹を与えたい・・・。 この願いのもと、ドアづくりを通して、木の美しさやぬくもりを人々の暮らしにお届けしま

本物の木のドアだけを作っています!

飛騨高山の職人が木を削り、木目を活かした塗装をして、 1本1本、丹精を込めて手作りでドアを 作っています。 拘りのある方に満足いただけるドアだけを 頑固に作り続けている会社です。

環境にやさしいドアを作っています!

ホルムアルデヒド(VOC)対策など安心してご使用 いただくだけでなく、マイナスイオンの出るドアなど、環境と健康に優しいドアも提案します。

高齢者の方、体が不自由な方、ペットを飼っている方、今使っているドアが不便と思われている方などの多様な生活スタイルに合せ、ドアを通して快適な住環境を提案します。

(5)事業規模

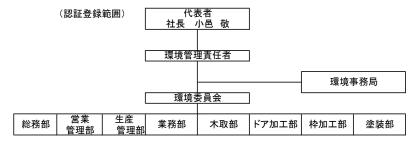
	項目	単位	2024年度	
資本金		百万円	30	
主要製品	生産量	t	118	
売上高		百万円	353	
活動人員		人	20	
床面積	床面積 事業場		5618.15	
	事務所	m [*]	66.08	
	工場	m [*]	2339.25	
	倉庫	m [*]	393.05	
	休憩室	m [*]	66.08	
	駐車場	m²	206.38	

人と環境にやさしいドアづくり





環境経営組織図及び役割・責任・権限表



役割·責任·権限表

代表者(社長) 役割·責任·権限

・環境経営に関する統括責任

・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備・環境管理責任者を任命

・環境経営方針の策定・見直し

・環境経営力調の家定・児園と ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認 ・環境経営システムの構築、実施、管理

環境管理責任者

・環境関連法規等の取りまとめ表を承認

・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告

環境事務局

部門長

・環境経営レポートの確認 ・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成

環境活動の実績集計

・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理

・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) 環境委員会

・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価

・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告

時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成

・試行・訓練を実施、記録の作成

・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施・環境に関する内部監査の計画・環境に関する内部監査の実施・報告 内部監査チーム

全従業員

・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境への負荷の取りまとめ(過去3年分)

	への負荷	単位	2022年	2023年	2024年	
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO2	117,317	121,477	113,462	
		リサイクル	t	0.3	0.4	0.0
廃棄物排出量及び 廃棄物最終処分量	一般廃棄物	中間処理	t	0.0	0.0	0.0
		最終処分量	t	0.0	0.0	0.0
	産業廃棄物	リサイクル	t	0.0	0.0	0.0
		中間処理	t	0.0	0.0	0.0
		最終処分量	t	1.8	1.2	1.4
総排水量	公共用水域	m³	109	1,015	1,322	
水使用量	上水	m³	1,093	1,015	1,322	
化学物質使用量	酢酸エチル/酢酸ブチル	kg	154	48	171	

3 環境経営目標とその実績

この環境活動レポートは、2022年4月から2023年3月までの実績を基準として、2024年4月から2025年3 月までの㈱コムラックスの取組実績を比較評価しています。

中長期

中長期									
項目		年度	2022年 (基準年)	2023年 2024年 2025年		2025年	備考	取組みの	
垻	Ħ	単位	(実績)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	湘石	評価
電力消	電力消費	%		<u>3. 1%</u>	<u>-1.0%</u>	<u>5. 2%</u>	<u>-1.5%</u>	【CO2調整後排出	
	量の削減 (単位:	kWh	<u>224, 785</u>	<u>230, 451</u>	<u>222, 537</u>	236, 467	<u>232, 920</u>	係数 2024年度】 0.446kg-C02/kWh	
	kw)	(kg-CO ₂)	109, 021	108, 208	<u>107, 708</u>	<u>105, 464</u>	<u>112, 733</u>	(日本テクノ㈱)	
	ガソリン	%	<u>-17. 9%</u>	<u>19. 0%</u>	<u>-1.0%</u>	4.9%	<u>-1.5%</u>		
	消費量 の削減	L	<u>870</u>	<u>857</u>	<u>861</u>	<u>913</u>	<u>899</u>		
☆二酸化 炭素削減	(単位:L)	(kg-CO ₂)	<u>2, 020</u>	<u>1,991</u>	2,000	2, 119	<u>2, 087</u>		
の為 電気・化	軽油消費		<u>-36. 7%</u>	<u>-47.8%</u>	<u>-1.0%</u>	<u>9. 5%</u>	0.0%		0
石燃料の使用量削	量の削減 (単位:L)	L	<u>960</u>	<u>791</u>	<u>950</u>	<u>1, 051</u>	<u>1, 051</u>		
減に取組 みます。		(kg-C0 ₂)	<u>2, 483</u>	2,046	<u>2, 458</u>	<u>2, 719</u>	<u>2, 719</u>		
	灯油消費	%	<u>118. 3%</u>	14.0%	<u>-1.0%</u>	<u>-60. 3%</u>	<u>0. 0%</u>		
	量の削減 (単位:L)	L	3, 196	<u>1,670</u>	3, 164	<u>1, 270</u>	<u>1, 270</u>		
	一動ル出	(kg-C0 ₂)	<u>7, 953</u>	4, 154	<u>7,873</u>	3, 159	<u>3, 159</u>		↓
	二酸化炭 素排出量 の 削減	%	<u>2. 8%</u>	<u>1. 2%</u>	<u>-1. 2%</u>	<u>-6.6%</u>	<u>-0.6%</u>		
	(全体計)	(kg-C0 ₂)	121, 477	119, 729	120, 039	113, 462	120, 699		
☆廃棄物 の削減に 取組みリ ユース・	分別及び リサイク ルの推進	%	<u>-70. 4%</u>	<u>62. 5%</u>	<u>-1.0%</u>	<u>10. 6%</u>	<u>-1.5%</u>		×
リサイク ルを推進 します。	(単位: kg)	(kg)	<u>1, 230. 0</u>	<u>1, 560. 0</u>	<u>1, 217. 7</u>	<u>1360. 0</u>	<u>1, 339. 6</u>		Ŷ
	事務所及び工場での節水	%	<u>16. 5%</u>	<u>4. 9%</u>	<u>-1.0%</u>	<u>30. 2%</u>	<u>-1.5%</u>		×
	(単位:	(m³)	<u>1, 015. 0</u>	<u>1, 155. 0</u>	<u>1, 004. 9</u>	<u>1, 322. 0</u>	<u>1, 302. 2</u>		Ŷ
☆環境に配慮した製品 自然塗料を使用した商品の販売促進(設定取引先のウレタン塗装使用商品との割合)。目標値25%に対して6.6%となり目標未達成となった。 新規採用(目標1件)、採用先の開拓は0件となり目標値は未達成となった。								×	
☆グリーン購入の拡大 を推進します。								0	
☆化学物質の適正管 理に努めます。 3ヶ月毎に保管状況及び使用状況の確認をする事ができた。								0	

☆2024年度から基準年度(2019年度)を2022年度に変更。理由は、生産量など事業活動による環境負荷が変わった為。



4 主要な環境経営計画の内容

項目		活動計画の内容			
	電力消費量 の削減	①不使用時の消灯 ②OA機器などのスイッチオフ ③エアコンの温度管理(夏季28℃±1℃) ④工作機械のスイッチオフなど ⑤主要モーター電流値のチェックによる負荷電流の抑制。			
☆二酸化炭素削減 の為電気・化石燃料 の使用量削減に取 組みます。	軽油消費量 の削減	①不要積載物の有無、タイヤ空気圧の確認 ②暖房運転・アイドリングストップなどエコドライブ ③社用車の乗り合わせの奨励 ④公共交通機関の利用の奨励 ⑤ヒーターの温度管理(冬季20℃±1℃) ⑥ペレットストーブの導入			
☆廃棄物の削減に取 組みリユース・リサ イクルを推進しま す。		廃棄物 ①使用済みコピー用紙や封筒を再利用する。無駄な資機材を購入しない。 ②発生する廃棄物をルールに準じ適正に分別する。 ③分別された廃棄物の2R推進活動を展開する。(廃品回収への協力や回収業者に持ち込む。)残余資材のリユース・リサイクルを徹底する。			
☆水の使用量削減な ど省資源に取組みま す。 事務所およ び工場での 節水					
☆環境に配慮した製品の販売促進		取引先への自然塗料を使用した商品の提案、販売促進。 端材利用による商品作り。内地材の有効利用(檜・樺)			
☆グリーン購入の拡大を	を推進します。	合法証明材の使用の拡大。 合法証明材のみで構成されたカタログ商品の販売促進。			
☆化学物質の適正管理	に努めます。	3ヶ月毎に保管状況及び使用状況の確認をする。			





環境経営計画の取組結果の評価

項目		年度	2022年 (基準年) 2024年		4年	取組の評価		
均	П	単位	(実績)	(目標)	(実績)	4×地の計画		
	電力消費	%		<u>-1.0%</u>	<u>5. 2%</u>			
	量の削減 (単位:	kWh	224, 785	222, 537	236, 467			
	kw)	(kg-C0 ₂)	<u>109, 021</u>	107, 708	<u>105, 464</u>			
	ガソリン	%		<u>-1.0%</u>	4.9%			
	消費量 の削減	L	<u>870</u>	<u>861</u>	<u>913</u>	電力消費量の削減は5.2%の増加、生産量換算		
☆二酸化 炭素削減	(単位:L)	(kg-CO ₂)	2,020	2,000	<u>2, 119</u>	達成状況は11.4%の増加となった。また、ガソリン 消費量の削減比率の値は4.9%の増加となった。		
の為 電気・化	和沖冰串	0		<u>-1.0%</u>	<u>9. 5%</u>	軽油消費量の削減比率は9.5%の増加となった。 灯油消費量の削減比率は-60.3%の減少となり		
石燃料の 使用量削	軽油消費 量の削減 (単位:L)	L	<u>960</u>	<u>950</u>	<u>1, 051</u>	目標達成となった。総合的に二酸化炭素の削減	0	
減に取組 みます。	(平位:L)	(kg-C0 ₂)	<u>2, 483</u>	<u>2, 458</u>	<u>2, 719</u>	比率の値は-6.6%の減少となり目標達成となった。生産量換算達成状況は-1.1%の減少となっ		
		%		<u>-1.0%</u>	<u>-60. 3%</u>	た。 -		
	灯油消費量の削減	L	<u>3, 196</u>	<u>3, 164</u>	<u>1, 270</u>			
	(単位:L)	(kg-C0 ₂)	<u>7, 953</u>	<u>7, 873</u>	<u>3, 159</u>			
	二酸化炭 素排出量	%		<u>-1.2%</u>	<u>-6.6%</u>			
	の 削減 (全体計)	(kg-C0 ₂)	121, 477	120, 039	113, 462			
☆廃棄物 の削減に 取組みリ ユース・	分別及び リサイク ルの推進	%		<u>-1.0%</u>	<u>10. 6%</u>	廃棄物の削減比率の値は10.6%の増加となり目標未達成となった。生産換算達成状況は17.1%	Δ	
リサイク ルを推進 します。	(単位: kg)	(kg)	<u>1, 230. 0</u>	<u>1, 217. 7</u>	<u>1360. 0</u>	(場外達成となった。 工程接昇達成ががは17.1% の増加となり目標未達成となった。	Δ	
☆水の使 用量削減 など省資	事務所及 び工場で の 節水	%		<u>-1.0%</u>	<u>30. 2%</u>	水の使用量削減比率の値は30.2%の増加となった。生産換算達成状況は38.0%の増加となった。 灯油の替わりに木端材をボイラーで燃やす為の	×	
源に取組みます。	(単位: m³)	(m³)	<u>1, 015. 0</u>	<u>1, 004. 9</u>	<u>1, 322. 0</u>	が増加したことが水の使用量削減 比率の増加の原因とみられる。		
		5%。設定取 合。)	た商品の販売促進。 設定取引先のウレタン塗装使用 牛)		採用先の開拓は未達成となった。割合目標に対 して6.6%となり目標未達成となった。	×		
☆グリーン購入の拡 大を推進します。		目標達成した。	0					
	文化学物質の適正管 理に努めます。 3ヶ月毎に保管状況及び使用状況の確認をする。		目標達成した。					

目標達成状況 (○:達成している △:達成してが少しできていない ×:大きく達成できていない)

代表者による全体の見直し・指示

[環境方針・目標] 変更なし

- 指示内容:
 ・夏季に木端材を収集して灯油消費量の削減に努めること。
 ・デマンドシステムを活用して電力消費量の削減に努めること。

[活動計画]

変更なし

指示内容:

- 1日・171日: ・持続可能な材で商品価値があり適正価格の商品普及を目指す。 ・職場における労働安全衛生の管理を強化する。

[環境経営システム]

変更なし

指示内容:

システム変更に関する指示なし

環境関連法規制への違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反、訴訟はありません。又、過去3年間に関係当局からの 違反等の指摘はありません。

適用される法規制等と遵守状況

法規制等の名称	該当する活動	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理廃 棄物の管理、排出	適正処理
大気汚染防止法 岐阜県関連条例	特定施設の届出、管理、規制値の遵 守、記録の作成	適正処理
騒音規制法	特定施設の届出、規制値の遵守	遵守
振動規制法	特定施設の届出、規制値の遵守	遵守
悪臭防止法	特定施設の届出、規制値の遵守	遵守
フロン排出抑制法	第1種特定製品の簡易点検	遵守
消防法	対象危険物保管の届出	遵守
クリーンウッド法	合法伐採木材の利用努力	遵守
高山市ごみ出しルール	一般廃棄物の分別、収集、排出	適正処理

7 次年度の取組内容

- ・二酸化炭素排出削減の為化石燃料の使用量削減(電気消費量、ガソリン消費量、軽油消費量 灯油消費量)・廃棄物の削減 (分別及び排出量の削減)

- ・廃棄物の削減(分別及び排出量の削減)
 ・水の使用量削減
 ・環境に配慮した商品の開発、販売(自然塗料を使用した商品の販売促進。)
 ・環境に配慮した物品の購入、使用(合法証明材の購入割合の増加促進。副資材(建材)の購入割合を軽減する。)
 ・化学物質の適正管理。
 ・長年の活動実績により大きく二酸化炭素の排出量は削減されたのと、生産高の大幅な減少により2022年度を新たな基準年として2024年は1%・2025年は1.5%・2026年は2%削減していく。







